

## マウスを用いた急性経口毒性試験

### 要 約

アクアプロ21Rによる生成水を検体として、OECD化学物質毒性試験指針(1987)に準拠し、マウスを用いた急性経口毒性試験(限度試験)を行った。

試験群には50 mL/kgの用量の検体を、対照群には原水(水道水)を雌雄マウスに単回経口投与した。その結果、試験動物に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体のマウスにおける単回経口投与によるLD50値は、雌雄ともに50 mL/kg以上であるものと考えられた。

### 依 頼 者

アサヒブリテック株式会社

### 検 体

アクアプロ21Rによる生成水

### 試験実施期間

平成11年9月21日～平成11年10月15日

### 試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所  
東京都多摩市永山6丁目11番10号

## 6 試験結果

- 1) 有効塩素濃度  
測定値は38 mg/Lであった。
- 2) 死亡例  
雌雄ともに観察期間中に死亡例は認められなかった。
- 3) 一般状態  
雌雄ともに観察期間中に異常は認められなかった。
- 4) 体重変化(表-1及び2)  
投与後7及び14日の体重測定では、雌雄ともに各群間で体重増加に差は見られなかった。
- 5) 剖検所見  
観察期間終了時の剖検では、雌雄ともにすべての試験動物の主要臓器に異常は見られなかった。

## 7 考 察

検体について、OECD化学物質毒性試験指針(1987)に準拠し、マウスを用いた急性経口毒性試験(限度試験)を実施した。

検体を50 mL/kgの用量で雌雄マウスに単回経口投与した結果、死亡例は見られず、剖検時にも異常は見られなかった。したがって、検体のマウスにおける単回経口投与によるLD50値は、雌雄ともに50 mL/kg以上であるものと考えられた。

表-1 体重変化(雄)

投与群	投与前	投与後(日)	
		7	14
試験群	26.6±0.8 (10)	33.1±1.4 (10)	37.6±1.4 (10)
対照群	26.6±0.7 (10)	32.9±1.8 (10)	36.2±2.2 (10)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。

括弧内に動物数を示した。

表-2 体重変化(雌)

投与群	投与前	投与後(日)	
		7	14
試験群	23.7±1.0 (10)	26.8±1.2 (10)	29.3±1.7 (10)
対照群	23.8±0.9 (10)	27.0±1.4 (10)	29.0±1.9 (10)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。

括弧内に動物数を示した。

以 上

## マウスを用いた急性経口毒性試験

### 要 約

アクアプロ21Rによる生成水を検体として、OECD化学物質毒性試験指針(1987)に準拠し、マウスを用いた急性経口毒性試験(限度試験)を行った。

試験群には50 mL/kgの用量の検体を、対照群には原水(水道水)を雌雄マウスに単回経口投与した。その結果、試験動物に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体のマウスにおける単回経口投与によるLD50値は、雌雄ともに50 mL/kg以上であるものと考えられた。

### 依 頼 者

アサヒブリテック株式会社

### 検 体

アクアプロ21Rによる生成水

### 試験実施期間

平成11年9月21日～平成11年10月15日

### 試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所  
東京都多摩市永山6丁目11番10号